

令和4年度
三鷹市立小・中一貫教育校

全7学園の評価・検証報告



令和5年6月
三鷹市教育委員会

令和4年度 三鷹市立小・中一貫教育校各学園の評価・検証について

平成21年度に、三鷹市内のすべての公立学校が小・中一貫教育校となり、各学園に設置されているコミュニティ・スクール委員会が、それぞれ、学園運営、教育活動等の成果や、課題と改善策、各課題解決のための創意工夫、改善策の有効性等について評価・検証を行い、結果を教育委員会に報告しています。

各学園は、それぞれの評価・検証を基に、市教育委員会は、各学園からの評価・検証を基にそれぞれの立場で、三鷹市の推進するコミュニティ・スクールを基盤とした小・中一貫教育の一層の充実・発展に努めてまいります。

各学園の評価・検証の項目、取組例は以下のとおりです。

人間力・社会力の育成

- (1) コミュニティ・スクールを基盤とした小・中一貫教育の推進
 - コミュニティ・スクールの運営について
 - 【例】・ コミュニティ・スクールの運営に係る内容
 - ・ 地域との効果的な連携に係る内容（関係機関との連携、教育ボランティア等）
 - 小・中一貫教育校としての教育活動について
 - 【例】・ 三鷹市小・中一貫カリキュラムの実施・検証に係る内容（学園研究等）
 - ・ 小学校間での授業交流
 - ・ 乗り入れ授業
 - ・ 児童・生徒の交流活動
- (2) 知・徳・体の調和のとれた三鷹の子どもを育てる教育内容の充実
 - （知） 確かな学力について
 - 【例】・ 三鷹市小・中一貫カリキュラム、三鷹「学び」のスタンダードの活用による授業力向上
 - ・ 授業のユニバーサルデザイン化による分かる授業の推進
 - ・ 主体的・対話的で深い学びの推進
 - ・ ICT活用
 - ・ みたか地域未来塾をはじめとした補充学習等
 - （徳） 豊かな人間性について
 - 【例】・ 考え議論する道徳
 - ・ いじめの早期発見・早期解決
 - ・ 情報モラル教育
 - ・ 生活指導等
 - （体） 健康・体力について
 - 【例】・ 基本的な生活習慣の確立
 - ・ 体力向上、健康にかかわる内容（食育）等
- (3) 特色ある教育活動について
 - 【例】・ 特色あるキャリア・アントレプレナーシップ教育
 - ・ オリンピック・パラリンピックレガシー教育等

喫緊の課題

- 学校教育の質の維持向上を目指した学校の働き方改革について
 - 【例】・ 退校目標時間、ノー残業デー等の設定
 - ・ 教員のタイムマネジメント力の向上
 - ・ 人財の効果的活用
 - ・ 地域行事等への参加の工夫等
 - ・ 部活動の適正化

連雀学園



令和4年度 連雀学園の評価・検証 結果報告

検証項目	1 コミュニティ・スクールの運営	
目標	<ul style="list-style-type: none"> ・スクール・コミュニティの創造 ・コミュニティ・スクールの運営 ・地域との効果的な連携（関係機関との連携、教育ボランティア等） 	
取組	<ul style="list-style-type: none"> ・スクール・コミュニティの第1歩となる「学校3部制」の第2部の教室開放や部活動の地域移行について進める。 ・CS委員会での話し合いの時間を確保する。 ・年間を通してデジタル・シティズンシップ教育について取り組み 8月には「子ども熟議」を12月には市全体の熟議を行う。 ・協働しての交流活動 ・学園の教職員の当事者意識とCS委員会や地域、家庭との協働 ・発信力のある広報活動 	
成果		課題と改善方策
<ul style="list-style-type: none"> ○六小については、教室開放など放課後の居場所づくりが順調に進み、他校でも教室改修や保護者・地域との会合が進んでいる。現在行っている開放には、80%以上の満足度を得られた。 ○デジタル・シティズンシップの取組みへは、児童・生徒会の連携、CS委員の協力を得て、市全体の熟議に参加し、各校で「デジタル・シティズンシップ宣言」を一人一人の児童が行うことができた。 ○推進員やサポート部の協力を得て「職業人の話を聞く会」を実施するなど、協働しての交流活動を再開できた。 ○協議会の機会を確保し、研修講師も招いて学園の育てたい児童・生徒像について、委員で考えることができた。 		<ul style="list-style-type: none"> ○予算がある学校は更なる新しいプログラムを計画、実行していく。施設だけの学校については、地域団体との連携を更に深め、人財の確保を目指す。 ○一人一人の児童・生徒の宣言が、日常的に意識できるよう、学園全体の保護者に広めていくようにしたい。次年度以降も、学園での取組みを周知する広報活動の工夫があるとよい。 ○今年度の取り組みを事例としてとらえ、次年度はイベント的なもの以外にも日常的な学習活動で連携できるようにしていく。 ○承認事項とのバランスを考えながら、引き続き協議時間を確保する。特に、ジョイナスの活動について、理解を深められるようにする。

検証項目	2 小・中一貫教育校としての教育活動	
目標	<ul style="list-style-type: none"> ・三鷹市小・中一貫カリキュラムの実施・検証（学園研究等） ・小学校間での授業交流 ・乗り入れ授業 ・児童・生徒の交流活動 	
取組	<ul style="list-style-type: none"> ・交流活動の改善 ・学園研究の充実 ・児童会・生徒会組織によるリーダーシップの育成 	
成果		課題と改善方策
<ul style="list-style-type: none"> ○学園研究会や各推進委員会は、集合とオンラインを併用したハイブリット型で進めることができた。 ○1学期に実施した5年生の選択交流学习、12月に実施した4年生の選択交流学习とも、参加児童の満足度が高く、10月から11月にかけて各小学校が行った一中体験も、コロナ禍でできる効果的な方法を工夫して実施できた。 ○乗り入れ授業は、できる限り実施することができた。引継ぎ書の活用により、継続した指導につなげることができるようになってきた。 		<ul style="list-style-type: none"> ○学園研推でまとめた成果と課題を各校が深く理解し、2年目の研究につなげていく。 ○交流活動は、実施の方向で最初から工夫する。時期を変えて一中での授業を行うなど、児童の思いをもっと汲んだ方法で計画する。 ○コロナや教員不足の影響により、乗り入れができなくなることは防げない。実際に、欠員が出て乗り入れ指導ができない状態があった。少ない回数であっても成果につながるよう、さらに引継ぎを確実にを行う。

検証項目	3 (知) 確かな学力	
目標	<ul style="list-style-type: none"> ・個別最適化された学びと協働的な学び ・三鷹市小・中一貫カリキュラム、三鷹「学び」のスタンダードの活用による授業力向上 ・授業のユニバーサルデザイン化による分かる授業の推進 ・主体的・対話的で深い学びの推進 ・GIGAスクール構想 ・みたか地域未来塾をはじめとした補充学習等 	
取組	<ul style="list-style-type: none"> ・学園研究の充実 ・基幹学力の定着・向上 ・キャリア・アントレプレナーシップ教育の推進 ・一人一台配布された学習用タブレット端末PCを十分に活用しながら「個別最適な学び」を進める。 	
	成果	課題と改善方策
	<ul style="list-style-type: none"> ○各校の実態に合わせて研究教科等を選択することにより、児童・生徒の学力向上につながる授業力の向上が図れた。 ○教科担任制で教員の強みを生かしたり、「地域未来塾」や個別指導で補充学習をしたりすることにより、児童・生徒の学力の向上につなげることができた。 ○学園の全教員が、学習用タブレット端末を活用した授業実践ができています。児童・生徒も授業中に学習用タブレット端末をよく使っていると80～90%が評価している。各学級へのプロジェクターの導入も、活用を後押しした。 	<ul style="list-style-type: none"> ○初年度の成果と課題を、2年目の研究につなげて、さらに個別最適な学びと協働的な学びを推進する。 ○教員不足の影響により、算数の習熟度別指導をできない時期のあった学校がある。ICT機器の活用など、指導技術を高める。 ○学習用タブレット端末の活用場面は、資料提示や調べ学習に使用する割合が高い。プロジェクターの導入や個別最適な学びを考えれば順当ではあるが、様々な場面で活用できるようにすることで、さらに主体的な学びにつなげていくことにも努めていく。

検証項目	4 (徳) 豊かな人間性	
目標	<ul style="list-style-type: none"> ・考え議論する道徳 ・いじめの早期発見・早期解決 ・情報モラル教育 ・生活指導等 	
取組	<ul style="list-style-type: none"> ・実践力につながるあいさつ運動 ・温かい人間関係の醸成、道徳教育の充実、自己肯定感・自己有用感の向上 ・オリンピック・パラリンピック教育レガシーの実践 	
	成果	課題と改善方策
	<ul style="list-style-type: none"> ○各校において、道徳科の授業を計画的に行い、研究校だけでない学校でも、授業満足度では高い評価であった。年3回のふれあい月間や子どもを笑顔にするプロジェクト、アスリートやパラリンピアンを招いての学習、外部専門家を招いてのQ-Uテストに関する研修など、児童・生徒の自己肯定感を高める取組みが実施できた。 ○ケース会議や関係者との連携をしながら、具体的な手立てをとったり、教員研修の機会を増やして内容も工夫し、児童・生徒の問題行動に早期対応したり、備えをつくったりすることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ○自己肯定感を高めることは容易ではなく、はっきりとした数値で表すことが困難である。ハイパーQ-Uテストを学園で導入し、他のアンケートとの関係も考えながら、児童・生徒の心の教育に関する取組みに生かす。 ○引き続き、実践力につながるあいさつ運動の充実を図るなど、保護者・地域も児童・生徒を見守るコミュニティ作りに努め、児童・生徒の豊かな人間性を育む。

検証項目	5 (体) 健康・体力	
目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 基本的生活習慣の確立 ・ 体力向上、健康にかかわる内容（食育）等 	
取組	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学園研究の充実 ・ 体力向上、健康教育への取り組み ・ 安全に関する正しい知識と高い意識 	
	成果	課題と改善方策
	<p>○ 毎日の体幹を鍛える運動や休み時間の持久走、なわ跳び、運動遊びなどの取組みが、コロナ禍でも充実して実施できた。</p> <p>○ 体力調査の結果は、令和3年度に比較して微増であった。三鷹市の平均以上となっている種目も多い。体力調査の結果を分析して体育の学習に意識して取り入れたり、家庭にも働きかけたりしている。</p> <p>○ 四小では、教科の学習を発展させ、家庭にも働きかけて食への関心を高める活動を、関係団体と連携して行うことができた。</p>	<p>○ 日常の外遊びについては、感染症対策と規模の大きさ故、半分の児童しか遊べない学校もある。体育館の活用など工夫して、生涯にわたって健康に過ごそうとする態度を育てていく。</p> <p>○ 全国平均との比較では、多くの学年で平均値を下回っている。運動の楽しさを十分に味わえるよう、授業改善に取り組むとともに、継続して調査の分析結果を活用した運動の工夫や働きかけをしていく。</p> <p>○ 各校が、それぞれの特色を生かして、健康に関わる教育活動を充実させていく。</p>

検証項目	6 特色ある教育活動（その他）	
目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 特色あるキャリア・アントレプレナーシップ教育 ・ デジタル・シティズンシップ教育 ・ 現代的な諸課題に対応して求められる資質・能力の育成（伝統や文化に関する教育、主権者に関する教育、法に関する教育など） 	
取組	<ul style="list-style-type: none"> ・ カリキュラム・マネジメントの観点より、各校で作成した地域と連携したキャリア・アントレプレナーシップ教育指導計画を実践する。 ・ CS委員会とも協働しながら、シティズンシップ教育に取り組む。 	
	成果	課題と改善方策
	<p>○ 8月1日の連雀学園の熟議、その後の全児童・生徒アンケートの実施、12月17日の三鷹市の熟議など、一中生徒会役員を中心に学園全体の取組みができた。生徒会役員による熟議の報告を受けて、学園の児童・生徒一人一人がデジタル・シティズンシップ宣言をできたことは、大きな成果と言える。</p> <p>○ デジタル・シティズンシップについては、CS委員会でも熟議を行い、児童・生徒、学校・地域での理解を深めることができた。学習アンケートや生活アンケートに質問を取り入れ、その結果と考察をCS広報誌で示すことができた。</p>	<p>○ 宣言にとどまらず、行動自体を自らが律していくよう、定期的に使い方を見直す機会として、次年度の「情報モラル教育用アプリ」を活用していく。また、授業内での活用を通して、学習や仕事に使う「ツール」だという意識を児童・生徒に醸成していく。</p> <p>○ 児童・生徒の学びや熟議などの取組みを、保護者がより深く理解できるよう、CS広報誌だけでなく、HPの活用も図り、周知の機会を増やす。</p>

検証項目	7 学校教育の質の維持向上を目指した学校の働き方改革	
目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 退校目標時間、ノー残業デー等の設定 ・ 教員のタイムマネジメント力の向上 ・ 人財の効果的活用 ・ 地域行事等への参加の工夫等 ・ 部活動の適正化 	
取組	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「三鷹市立学校における働き方改革プラン」を踏まえ、SC推進員、校内の専門スタッフや校務支援システムの活用をすることで、組織的な課題解決力の充実を図り、校務改善を進める。 	
成果		課題と改善方策
<p>○ 定時退庁日に加えて、My定時退庁日を設定させるなどの工夫により、教員の意識が高まった。テストや通知表作成の時期には、時間外勤務時間45時間を超えてしまう教員の割合が増えてしまったが、60%前後の教員が、45時間以内に抑えられるようになっている。</p>		<p>○ 校務のスリム化には限度があるが、できることを見つけ次第スリム化していく。また、教員個々の仕事のスタイルを理解しながら、対話することにより、メンタルケアを欠かさないようにしていく。</p>

令和4年度 連雀学園の評価・検証結果のまとめ	
(1) から (7) の検証結果を踏まえて	<p>1 「小・中一貫教育」及び「コミュニティ・スクール」の取組において特によい成果が得られたこと</p>
	<p>○ CS委員会での熟議やCS評価と関連したデジタル・シティズンシップ教育の取組みは、児童・生徒会活動の交流の活性化もあって、地域との協働による児童・生徒の育成のきっかけとなった。</p> <p>○ スクール・コミュニティ構想の学校3部制の取組みが進み、先行モデル校では活用に対する満足度調査で高評価を得られた。各校の取組みも徐々にではあるが進んでいる。</p> <p>○ 学園の交流活動が再開し、児童・生徒が連雀学園の児童・生徒であることを改めて意識して、学習に取り組めた。教員も、学習用タブレット端末を活用して、ハイブリッド型研修を行うことが常態化し、意思の疎通が以前よりも円滑に行えるようになった。</p>
	<p>2 今年度に明らかになった課題のうち、特に次年度の重点とすること</p>
	<p>○ あいさつの日常化に代表される「地域の子どもを地域で育てる」意識を、保護者・地域・学校でもてるよう、スクール・コミュニティの推進を図る。</p> <p>○ 個別最適な学びと協働的な学びを推進し、主体的・対話的で深い学びの実現へ向けた授業改善に引き続き取り組む。</p> <p>○ 道徳教育の充実に加え、交流活動を児童・生徒、地域とも日常的に連携し、温かい人間関係の醸成を図る。</p>
	<p>3 「2」の重点課題を解決するための改善策</p>
	<p>○ CS委員会の充実やSC推進員の活用及び学校3部制の第2部である放課後の教室開放をさらに進めることにより、スクール・コミュニティの創造を継続して目指す。</p> <p>○ 「知的コミュニケーションを生かした学習指導の工夫」をテーマに、2年目の学園研究を充実させ、学びに向かう集団作りをすすめながら、授業改善に取り組む。</p> <p>○ 学園全体で導入するQ-U調査を基に、よりよい人間関係づくりに努めるとともに、児童・生徒や地域学校協働本部の活動の活性化により、交流活動を充実させる。</p>

にしみたか学園



にしみたか学園

令和4年度 にしみたか学園の評価・検証 結果報告

検証項目	1 コミュニティ・スクールの運営	
目標	<ul style="list-style-type: none"> ・スクール・コミュニティの創造 ・コミュニティ・スクールの運営 ・地域との効果的な連携（関係機関との連携、教育ボランティア等） 	
取組	<ol style="list-style-type: none"> 1 「にしみたかアフタースクール構想」の実施（学校3部制） 2 「あささんネット」の運営 3 英検・漢検等の支援者拡大 4 地域学習等への支援体制 	
成果		課題と改善方策
<ol style="list-style-type: none"> 1 「にしみたかアフタースクール構想」（学校3部制）を実施することができた。 2 「あささんネット」の運営としての「あささんフェスティバル」及びダンス部の開催等することができた。 3 英検・漢検等の支援者拡大として、ICU大学生による英検の2次面接練習を開催した。 4 地域学習等への支援体制として、まちづくりプランナー、職場訪問、職業人の話を聞く会を開催することができた。 5 にしみたかアクションプランの策定ができた。 		<ol style="list-style-type: none"> 1 「にしみたかアフタースクール構想」の第2部の充実と第3部との連携を推進する。 2 「あささんネット」の運営・支援内容を検討するとともに支援者を拡大する。 3 英検・漢検等の支援者の更なる拡大を図る。 4 地域学習等の担当教員との打ち合わせ会の日程を確保する。 5 あささんネットによるダンスクラブの正式に発足する。 6 にしみたかアクションプランの周知を図る。

検証項目	2 小・中一貫教育校としての教育活動	
目標	<ul style="list-style-type: none"> ・三鷹市小・中一貫カリキュラムの実施・検証（学園研究等） ・小学校間での授業交流 ・乗り入れ授業 ・児童・生徒の交流活動 	
取組	<ol style="list-style-type: none"> 1 部活動見学 2 乗り入れ 3 児童生徒の交流活動 4 感染拡大に対応した交流活動を計画する。（例：DVD作成やオンライン交流） 5 児童・生徒が主体的に取り組む行事の設定 6 子供の意見聴取 	
成果		課題と改善方策
<ol style="list-style-type: none"> 1 小学生による中学校の部活動見学を実施することができた。 2 乗り入れ授業として、英語・体育・数学の3教科で実施することができた。 3 児童生徒の交流活動を再開することができた。 4 交流活動として、小学校6年生の中学校授業体験や小学校5年生の中学校見学を実施することができた。 5 児童・生徒が主体的に取り組む行事として、世界の言葉を使ったあいさつ運動を実施した。 6 デジタル・シティズンシップ教育の一環として、子供の意見聴取を行うことができた。 7 CS委員による子どもの意見聴取を通してアクションプランを策定した。 8 ふれあいボランティアによる交流活動（中学校3年生）を実施することができた。 		<ol style="list-style-type: none"> 1 小学生による中学校の部活動見学を継続する。 2 乗り入れ授業として英語・体育・数学の3教科で継続実施する。 3 児童生徒会における児童生徒の交流活動を実施する。 4 交流活動として小学校6年生の中学校授業体験や小学校5年生の中学校見学を継続実施する。 5 あいさつ運動への児童・生徒の主体的な参加 6 CS委員会による子供の意見聴取をする熟議を開催する。 7 アクションプランの改定と周知活動を推進する。

検証項目	3 (知) 確かな学力	
目標	<ul style="list-style-type: none"> ・個別最適化された学びと協働的な学び ・三鷹市小・中一貫カリキュラム、三鷹「学び」のスタンダードの活用による授業力向上 ・授業のユニバーサルデザイン化による分かる授業の推進 ・主体的・対話的で深い学びの推進 ・GIGAスクール構想 ・みたか地域未来塾をはじめとした補充学習等 	
取組	<ol style="list-style-type: none"> 1 授業評価の実施 2 未来塾の活性化（主体的に取り組む） 3 思考力を高める授業展開 4 個別最適化に向けた学習用タブレット端末の有効活用 5 基礎基本の定着を図るための補充学習 6 学習用タブレット端末を活用した授業のユニバーサルデザイン化 	
	成果	課題と改善方策
	<ol style="list-style-type: none"> 1 授業評価を実施することができた。 2 未来塾を活性化することができた。 3 思考力を高める授業展開を実施できた。 4 個別最適化に向けて学習用タブレット端末を有効活用することができた。 5 基礎基本の定着を図るための補充学習を実施した。 6 授業のユニバーサルデザイン化に向けて学習用タブレット端末を活用した。 	<ol style="list-style-type: none"> 1 授業評価の内容を検討する。 2 未来塾の更なる活性化を図る。 3 話し合い活動を通して、思考力を高めるなどのねらいに迫る授業改善の推進を図る。 4 個別最適化に向けた学習用タブレット端末の更なる有効活用を図る。 5 基礎基本の定着を図るための補充学習を充実させる。 6 授業のユニバーサルデザイン化の推進を図る。 7 指導の個別化や協働学習の更なる推進を図る。

検証項目	4 (徳) 豊かな人間性	
目標	<ul style="list-style-type: none"> ・考え議論する道徳 ・いじめの早期発見・早期解決 ・情報モラル教育 ・生活指導等 	
取組	<ol style="list-style-type: none"> 1 考え議論する道徳の実施 2 デジタル・シティズンシップ教育の推進 3 セーフティ教室の充実 4 教員の情報機器管理能力の育成 5 感染症にかかわる家庭への啓発活動 6 いじめの早期対応 	
	成果	課題と改善方策
	<ol style="list-style-type: none"> 1 道徳の授業を適切に実施することができた。 2 児童・生徒代表者会によるデジタル・シティズンシップ教育の推進を図った。 3 セーフティ教室の充実を図った。 4 教員の情報機器管理能力の向上がみられた。 5 感染症にかかわる家庭への啓発活動を適切に実施することができた。 6 Q-Uアンケートやふれあいアンケートを活用したいじめの早期対応が図られた。 	<ol style="list-style-type: none"> 1 心に迫る道徳の授業の充実を図る。 2 デジタル・シティズンシップ教育の周知と適切な推進を図る。 3 セーフティ教室の更なる充実を図る。 4 教員の情報機器管理能力の更なる育成を図る。 5 継続した感染症にかかわる家庭への適切な啓発活動を推進する。 6 Q-Uアンケートやふれあいアンケート等の活用、日ごろ変化等の気付きなど、更なるいじめの早期対応を図る。

検証項目	5 (体) 健康・体力	
目標	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な生活習慣の確立 ・体力向上、健康にかかわる内容（食育）等 	
取組	<ol style="list-style-type: none"> 1 1校1取り組み・1学級1取り組みの実施 2 給食による食育の実施 3 感染症対策を行い継続的な部活動の実施 4 中学校は3月に助産師による命の教育実施 5 中学校は12月に駅伝実施 6 継続した感染症に対する理解啓発の取り組み 	
	成果	課題と改善方策
	<ol style="list-style-type: none"> 1 1校1取り組み、1学級1取り組みを実施することができた。 2 給食による食育を実施することができた。 3 感染症対策を行い継続的な部活動を実施することができた。 4 中学校は、3月に助産師による命の教育を実施することができた。 5 中学校は、12月に駅伝を実施することができた。 6 継続した感染症に対する理解の啓発に取り組むことができた。 	<ol style="list-style-type: none"> 1 継続した1校1取り組み、1学級1取り組みを実施する。 2 食育推進校による給食による食育の適切な実施を図る。 3 中学校は、引き続き3月に助産師による命の教育を実施する。 4 中学校は、引き続き12月に駅伝を実施する。 5 継続した感染症に対する理解の啓発の取り組みを推進する。 6 がん教育、薬物乱用防止は、薬剤師による教室を実施する。

検証項目	6 特色ある教育活動（その他）	
目標	<ul style="list-style-type: none"> ・特色あるキャリア・アントレプレナーシップ教育 ・デジタル・シティズンシップ教育 ・現代的な諸課題に対応して求められる資質・能力の育成 （伝統や文化に関する教育、主権者に関する教育、法に関する教育など） 	
取組	<ol style="list-style-type: none"> 1 学園研究による地域キャリア教育の取り組み 2 地域との連携による地域学習キャリア教育の取り組み 3 レガシーとなるオリンピック・パラリンピックの推進 4 生涯スポーツの推進（地域等のボランティア活動） 5 児童会・生徒会の活性化 6 デジタル・シティズンシップ教育 	
	成果	課題と改善方策
	<ol style="list-style-type: none"> 1 学園研究による地域キャリア教育の取り組みの推進が図られた。 2 地域との連携による地域学習キャリア教育の取り組みの推進が図られた。 3 レガシーとなるオリンピック・パラリンピックの推進が図られた。 4 地域等のボランティア活動など生涯スポーツの推進が図られた。 5 児童会・生徒会の活性化が図られた。 6 デジタル・シティズンシップ教育の取り組みを実施することができた。 	<ol style="list-style-type: none"> 1 学園研究による話し合い活動（特別活動等）の取り組みの推進を図る。 2 地域との連携による地域学習キャリア教育の取り組みの推進を図る。（まちづくりプランナー・職場体験） 3 レガシーとなるオリンピック・パラリンピックの推進を図る。 4 あささんネットと連携した生涯スポーツの推進を図る。 5 児童会・生徒会の更なる活性化を図るため、CS委員会による子ども熟議に取り組む。 6 デジタル・シティズンシップ教育の適切な推進を図る。

検証項目	7 学校教育の質の維持向上を目指した学校の働き方改革	
目標	<ul style="list-style-type: none"> ・退校目標時間、ノー残業デー等の設定 ・教員のタイムマネジメント力の向上 ・人財の効果的活用 ・地域行事等への参加の工夫等 ・部活動の適正化 	
取組	<ol style="list-style-type: none"> 1 長期休業期間中の休業日設定（夏季・冬季閉庁日の設定） 2 ノー残業デーの設定 3 教員業務の進行管理 4 にしみたかアフタースクール構想 <ul style="list-style-type: none"> ・CS委員会と連携した人財の活用 ・部活動指導員や外部指導員の積極的な活用 5 感染症対策及び人権意識の啓発継続 	
	成果	課題と改善方策
	<ol style="list-style-type: none"> 1 長期休業期間中の休業日設定（夏季・冬季閉庁日の設定）し、実施することができた。 2 ノー残業デーの設定をした。 3 教員業務の進行管理を推進した。 4 にしみたかアフタースクール構想の具現化が図られた。 <ul style="list-style-type: none"> ・あささんネットと連携した人財の活用 ・部活動指導員や外部指導員の積極的な活用 5 感染症対策及び人権意識の啓発継続が行われた。 	<ol style="list-style-type: none"> 1 引き続き、長期休業期間中の休業日設定（夏季・冬季閉庁日の設定）及び実施を行う。 2 ノー残業デーの設定をするとともにその徹底を図る。 3 勤務時間内の会議設定を図る。教員業務の進行管理の徹底を図る。 4 引き続き、にしみたかアフタースクール構想の具現化を図る。 <ul style="list-style-type: none"> ・にしみたかダンスクラブの創設及びバスケットボールクラブの試行 ・部活動指導員や外部指導員の積極的な活用 ・第3部との連携 5 感染症対策及び人権意識の啓発継続及び徹底を図る。

令和4年度 にしみたか学園の評価・検証結果のまとめ	
(1) から (7) の検証結果を踏まえて	<ol style="list-style-type: none"> 1 「小・中一貫教育」及び「コミュニティ・スクール」の取組において特によい成果が得られたこと <ul style="list-style-type: none"> ・小学校6年生の中学授業体験、小学校5年生の中学校見学及び部活動見学の実施ができた。 ・小・中乗り入れ授業の実施ができた。 ・あいさつ運動を開催することができた。 ・児童生徒代表者会議を実施することができた。 ・ふれあいボランティアの実施ができた。 ・デジタル・シティズンシップ教育の取り組みを実施できた。 ・学園研究（キャリア教育の探究学習への取り組み）の推進が図られ授業改善ができた。
	<ol style="list-style-type: none"> 2 今年度に明らかになった課題のうち、特に次年度の重点とすること <ul style="list-style-type: none"> ・小学校6年生の中学授業体験、小学校5年生の中学校見学、部活動見学を継続して実施する。 ・小・中乗り入れ授業を継続して実施する。 ・あいさつ運動を継続して実施する。 ・児童生徒代表者会議を継続して実施するとともに、CS委員会による子ども熟議を開催する。 ・ふれあいボランティアを継続して実施する。 ・デジタル・シティズンシップ教育の適切な実施を推進する。 ・学園研究（キャリア教育の探究学習への取り組み）の更なる推進を図る。
	<ol style="list-style-type: none"> 3 「2」の重点課題を解決するための改善策 <ul style="list-style-type: none"> ・小中連携の活動の充実を図り、小学校6年生の中学授業体験、小学校5年生の中学見学、部活動見学を適切に実施する。 ・小・中乗り入れ授業の適切な時間割の作成及び人財配置等を行う。 ・あいさつ運動の時期や時間、参加者等の検討を行う。 ・児童生徒代表者会議の議題や各校における検討を踏まえ、オンラインを含めた実施を検討する。 ・ふれあいボランティアを更に工夫し、発展させる。 ・「三鷹市デジタル・シティズンシップ育成指針」の周知を図る。 ・これまでの学園研究を発展させ（話し合い活動）の研究を進め、授業改善を進める。

三鷹の森学園



令和4年度 三鷹の森学園の評価・検証 結果報告

検証項目	1 コミュニティ・スクールの運営	
目標	スクール・コミュニティの創造に向けて、地域・学校協働活動の充実を図る。	
取組	○ スクール・コミュニティ推進員の活躍を通して、地域人財や保護者などによる「学園サポーター」や大学等との連携により「地域未来塾」をはじめとした地域・学校協働活動の取組を積極的に進め、地域ぐるみで「人間力」「社会力」を育成する。	
	成果	課題と改善方策
	<ul style="list-style-type: none"> ○ SC推進員がコーディネーターとして、学校（担任）とゲストティーチャー、学園サポーターと繋いでくれることで担任の負担軽減になるだけでなく授業展開がよりスムーズになった。 ○ 「地域未来塾」では、昨年度のふりかえりを受けて実施内容を変更して実施し、より効果的に計画通り進められた。 ○ 校内通級教室やスクールカウンセラーなどといった教育支援の選択肢のひとつとして「地域未来塾」が機能することができた。 ○ 児童アンケートからは「たくさん褒めてもらえて自信になった」「算数が好きになった」といった反応があった。 ○ 参加した児童・生徒、一人ひとりのニーズにあった取組みとなり、個別最適化を推進することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 授業内容をより深めるためにも地域人財との授業展開は重要になる。各教科、各学年それぞれにおいて新しい取組を生み出していく。 ● 「学園サポーター」は主に保護者が担っている。メンバーが固定している面もある。持続可能な取組みするためにも今後は、アクティブシニア層にも加わってもらえるよう住民協議会等とも連携を図っていく。中学校では活用場面を検討していく。 ● 小学校においては「地域未来塾」について担任、児童、保護者それぞれの共通理解を充実させより効果的な取組みになるよう進めていく。より効果的な学年について校内で検討し、実施していく。 ● 中学校においては教育支援「校内委員会」と「地域未来塾」との連携体制はあるが、実際の参加者数に反映しきれていない。担任、管理職、SC推進員との情報共有をより充実させ、授業以外の「学びの場」としての支援を機能させていく。

検証項目	2 小・中一貫教育校としての教育活動	
目標	地域の教育資源を活用したカリキュラム・マネジメントを推進する。	
取組	○ 9年間を通じて育成を目指す「資質・能力」を位置付けた「学園版カリキュラム」に基づいて、主体的・対話的で深い学びの視点から「粘り強さ」と「学習の調整」との授業改善を目指す実践研究に取り組む。	
	成果	課題と改善方策
	<ul style="list-style-type: none"> ○ コロナ禍で活動に制限のある中、研究会の実施の仕方を工夫し、一昨年度作成した「カリキュラム・マネジメント」を活用した授業に取り組み、「主体的に学習に取り組む態度」に焦点を当て、実践を進めることができた。 ○ SC推進員及びCS委員会地域サポート部との連携により、地域の教育資源を活用した授業ができた。ネットワークを活用することで、「知的資源」としての活用へとつながった。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 今年度の学園研究を受け、学園教員間のデータ共有を図り、「カリキュラム・マネジメント」の日常化、幅広い教育活動への広がりを図る。 ● 学校とSCコーディネーターのさらなる連携を図り、地域の教育資源の掘り起こしを行い、持続可能な教育活動へとつなげる。

検証項目	3 (知) 確かな学力	
目標	個別最適化された学びと協働的な学びの実現に向けた取り組みを推進する。	
取組	○ 各種学力調査のデータ等から個々の児童・生徒の課題を明らかにするとともに、一人一台学習用タブレット端末 PC や学習支援ツール等の活用により、児童・生徒が自らの学習を計画的に進められるようにする。	
	成果	課題と改善方策
	<p>○ G I G Aスクールマイスターを中心として、教員が学習用タブレット端末の有効な活用方法について研修を深め、授業に取り入れることで、授業の「分かりやすさ」「取り組みやすさ」を、さらに向上させることができた。</p> <p>○ 児童・生徒は、学習用タブレット端末の操作にも慣れ、自らの学習進度に合わせて学習用タブレット端末を活用し、学びを深めることができた。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 学習内容の発表などでは、学年が上がるほど発表内容が高度になるため、学年の系統性を大切にされた教科横断的な取り組みを充実させていくことが必要である。 ● 児童・生徒が自らの学習を計画的に進めることができるように、教員が作成した学習動画を活用するなど、さらに学習用タブレット端末を活用した指導の工夫と充実を図っていく必要がある。

検証項目	4 (徳) 豊かな人間性	
目標	あらゆる教育活動を通して、他者との関わりを大切にし、協働して課題解決に取り組もうとする意欲を育む。	
取組	○ 「多様な人々との対話や協働を通じて、新たな価値やよりよい社会を創造していく力」を育成するために、地域の教育資源の活用を図る。	
	成果	課題と改善方策
	<p>○ 中学校では、講師を招き、インターネット利用についての全学年対象のセーフティ教室を行った。個人、ペアやグループ、全体での意見交流等を通し、生徒が主体的に関わるデジタル・シティズンシップ教育活動の充実を図った。</p> <p>○ 小学校では、三中見学及び小・小交流を3年ぶりに行った。中学校見学では、代表生徒から児童が中学校生活について話を聞いたり質問したりした。小学校間交流では、合同チームで遊びを通して交流を図った。意欲的に他校児童・生徒との交流を楽しむことができた。</p> <p>○ 感染症対策を踏まえつつ、S C推進員等、地域・企業等、多様な方々の助けを得て学园内交流活動を行ったことで、児童・生徒の意識向上を図り、協働して課題解決に取り組むことができた。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 学園内の情報共有、C S委員会との連携を充実させながら、他の活動においてもI C T機器の活用等により可能になる教育活動の充実を図る。 ● 年間指導計画に基づき、多様な教科において、乗り入れ教員、地域人材等、教育資源の活用のさらなる充実を図る。 ● コロナ禍においては児童の対話力や協働する力、コミュニケーション力、行事等運営力・実行力を十分に伸ばすことは難しかったため、多様な地域人材等を活用しながら、学習活動のさらなる工夫と充実を図る。

検証項目	5 (体) 健康・体力	
目標	自らの健康・体力の保持・増進に努め、望ましい生活習慣を身に付けた児童・生徒を育成する。	
取組	○ 学園の共通課題である「体力・運動能力の向上」の実現に向けて中学校保健体育科教員の小学校への乗り入れ授業を活用するとともに、児童・生徒の課題に応じた「一校一取組」「一学級一実践」を進める。	
	成果	課題と改善方策
	<ul style="list-style-type: none"> ○ 短縄や長縄、持久走などに継続的に取り組んだり、昼休みの体力づくりを実施したりして、体力・運動能力の向上に取り組むことができた。 ○ 中学校教員による小学校体育への乗り入れ授業によって、専門性を生かしたきめ細やかな指導が展開できた。児童たちも中学校での学習への見通しをもって取り組み、学習意欲を高めることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 望ましい生活習慣の育成については、様々な場面を活用して児童の意識を高めるとともに、保護者への啓蒙も併せて行うことが必要であると考え。学校便り等を活用し、継続して伝えていく。 ● 体力・運動能力調査の結果を踏まえ、「一校一取組」「一学級一実践」の内容について引き続き改善を図るとともに、年間を通した運動の日常化への取り組みを地域子どもクラブ等とも模索しながら進めていく。

検証項目	6 特色ある教育活動（その他）	
目標	地域人財の活躍、学校周辺環境を活用した人間力・社会力の育成	
取組	○ 地域人財の活躍、学校周辺環境を活用した教育活動を進めていく。教師、保護者だけでなく、多くの大人とかかわることで、人間力・社会力の育成を図る。	
	成果	課題と改善方策
	<ul style="list-style-type: none"> ○ コロナ禍で活動に制限のある中、研究会の実施の仕方を工夫し、一昨年度作成した「カリキュラム・マネジメント」を活用した授業に取り組み、「主体的に学習に取り組む態度」に焦点を当て、実践を進めることができた。 ○ SC推進員及びCS委員会地域サポート部との連携により、地域の教育資源を活用した授業ができた。ネットワークを活用することで、「知的資源」としての活用へとつながった。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 今年度の学園研究を受け、学園教員間のデータ共有を図り、「カリキュラム・マネジメント」の日常化、幅広い教育活動への広がりを図る。 ● 学校とSCコーディネーターのさらなる連携を図り、地域の教育資源の掘り起こしを行い、持続可能な教育活動へとつなげる。

検証項目	7 学校教育の質の維持向上を目指した学校の働き方改革	
目標	教職員の働き方改革と学園の教育活動の充実・向上の両立を図る。	
取組	○ オンラインと対面それぞれの利点を生かしたメリハリのある学園会議・研究会の運営や、SC推進員、SSSなどのスタッフの活躍による業務の改善に取り組むとともに、学園の諸事業についても学園目標に照らして重点化を図ることにより充実と合理化・スリム化を両立する。	
	成果	課題と改善方策
	<ul style="list-style-type: none"> ○ 校務処理の効率化やスタッフの活用、オンラインでの会議を増やすなど、業務の軽減は昨年度より一層進み、働き方改革につながる成果が出ている。 ○ 働き方改革に対する教員の意識も高まり、自分のペースで授業の準備や校務に取り組む時間の確保ができた。 ○ 業務分担を見直し、校内組織を活用しながら業務改善を行うなどして、週の残業時間も全体としては減少傾向にある。あわせて学校が対応すべき仕事の精査を行い、教員が本来の業務に集中できるようにし、業務量の低減を図ることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 学園の様々な行事等について精査をし、ねらいに沿った合理化・スリム化を一層進めていく必要がある。 ● 未だに残業時間が多い状態で推移している教員もいることから、自己申告等の面談等を通して改善を図るように指導していくとともに、日常的に啓発を図っていく。 ● 教員の勤務体系（勤務時間等）や学校が取り扱う事項について、保護者や地域に定期的に発信し、これまでのような「何でも学校へ」という意識を変えてもらい、教員が本来の業務に集中できる環境を整えることで、教育活動の活性化を図っていく。

令和4年度 三鷹の森学園の評価・検証結果のまとめ	
(1) から (7) の検証結果を踏まえて	1 「小・中一貫教育」及び「コミュニティ・スクール」の取組において特によい成果が得られたこと
	<ul style="list-style-type: none"> ○ SC推進員を通して地域の協力を得て、各学校がそれぞれの課題とニーズに応じて「地域未来塾」の運営を推進することができた。 ○ コロナ禍の中にあっても、学園研究会の実施方法を工夫することで、学園内の教員交流も含めての実践化を進めることができた。 ○ 「地域の教育資源=ゲストティーチャー」という固定化したイメージから発展的に脱却する糸口を見出すことができた。 ○ 教室におけるICT活用について校内組織や実践開発の方法を工夫しながら取り組み、オンライン授業や、指導の個別化への対応を進めることができた。
	2 今年度に明らかになった課題のうち、特に次年度の重点とすること
	<ul style="list-style-type: none"> ● 従来の小・中交流、小・小交流を踏襲するだけではなく、機会が限られても充実を図ることができるような内容と方法の工夫が必要である。 ● 研究から実践への橋渡しとなった令和4年度の学園研究を受け、次年度はより幅広い教育活動において実践の「日常化」を図る必要がある。 ● SC推進員のコーディネート機能の充実を通して、地域の教育資源の掘り起こしと見える化に取り組む必要がある。 ● 学園・各校の様々な教育活動においても、学習用タブレット端末やネットワーク等のより効果的な活用と工夫を図ることで取組の充実を図りたい。
	3 「2」の重点課題を解決するための改善策
	<ul style="list-style-type: none"> ◎ 児童・生徒会交流会の実施方法を見直し、より多くの児童・生徒が参加できる継続的な取組として再構築する。 ◎ 授業だけではなく、特別活動等においてもカリキュラム・マネジメントを進めるとともに、学園教員間のデータ共有を図ることで実践を広げる。 ◎ SC推進員との連携を向上させるために「地域未来塾」や各種検定の運営について広報に努めるとともに、教職員からの依頼・相談の方法について整備を進める。 ◎ 情報リテラシーに重点を置いたデジタル・シティズンシップの育成を図りながらICTを活用した児童・生徒の交流活動を進めるとともに、学園研究や学園会議など教職員の協働についてもICTの利点を生かした取り組みを推進する。

三鷹中央学園



令和4年度 三鷹中央学園の評価・検証 結果報告

検証項目	1 コミュニティ・スクールの運営	
目標	コミュニティ・スクール委員会の協議と支援の充実に努める。	
取組	①CS委員会の活性化と地域協働活動の充実に図り、持続可能な運営体制を確立させていく。 ②学園の教員とCS委員との100人熟議において、「三鷹中央学園パワーアップ・アクションプラン」を見直し、改訂する。 ③学習ボランティアについて、教員、保護者、地域への説明を計画的に実施し、積極的な活用を図っていく。	
	成果	課題と改善方策
	○ CS委員会の中で、熟議や学校部会等を行い、意見交換をすることができた。 ○ 学園の教員とCS委員との100人熟議を2回行い、「三鷹中央学園パワーアップ・アクションプラン」の見直しを行い、一定程度の改訂を行うことができた。熟議に意欲的に参加できたとの教員の回答も90%以上に上り、有意義な熟議になった。 ○ 防災授業に地域人財とともに取り組んだと回答した教員は、93.5%と高く、三鷹中央学園9年間の防災教育が、コロナ禍前の取組に戻ってきた。また、人財活用による学習効果は、96.8%の教員が高まったと回答している。地域人財を積極的に活用した教育活動がすすめられつつある。	● CS委員会の活性化 ⇒委員会の中での、熟議や学校部会を増やし、意見交換しやすい雰囲気と体制を作る。 ● 「三鷹中央学園パワーアップ・アクションプラン」改訂後について ⇒アクションプランに即した、PDCAサイクルを構築する。

検証項目	2 小・中一貫教育校としての教育活動	
目標	学園研究会の活性化と交流活動の一層の充実に図り、学園としての一体感を深める。	
取組	①本学園カリキュラムの実証及び「個別最適な学び」「協働的な学び」の実現に向けた研究授業を実施する。 ②子どもたちが自分と社会のつながりや将来について考える授業を各教科や総合的な学習の時間などキャリア教育につながる学習の充実や体力・運動能力の向上を図るための取組の充実に図っていく。 ③小中交流、小中交流活動の一層の充実に図る。「三鷹中央学園パワーアップ・アクションプラン」「デジタル・シティズンシップ教育」についての熟議を実施する。	
	成果	課題と改善方策
	○対面での研究授業を3校ともに実施することができた。自らの授業に生かした教員は、95%以上おり、有意義な研究授業となった。また、授業がわかると回答している児童・生徒も90%以上あり、児童・生徒の実態に即した授業が展開できている。 ○交流活動は、コロナ禍前に戻りつつあり、多くの交流が行われたことが成果である。「三鷹中央学園パワーアップ・アクションプラン」「デジタル・シティズンシップ教育」の熟議も計画どおり実施でき、意識改革を図ることができた。コロナ禍の中での活動であったが、交流活動が学園の一体感を生み出していると回答した教員は82.3%おり、小・中一貫としての重要な要素となっている。	●「個別最適な学び」「協働的な学び」に向けた授業改善（研究授業）の実施 ⇒三鷹市の研究協力校に学園として応募し、児童・生徒の自立的な学びの確立を目指した「個別最適な学び」「協働的な学び」を実現する授業改善に取り組んでいく。 ●交流活動の成果検証 ⇒交流活動が学園の子供たちにとって有効な活動となっているのかについて、個々の活動について検証をし、よりよい活動に改善する。

検証項目	3 (知) 確かな学力	
目標	相手の考えを生かし自分の考えを広げ深める力を育む。	
取組	①「個別最適な学び」「協働的な学び」を目指した授業に取り組んでいく。 ②各校における状況に応じて望ましい読書の習慣化が図られるように指導していくとともに、目的に応じて学校図書館を利用した調べ活動を活発に行えるように指導の工夫をしていく。 ③ICT機器のより良い使い手になるための熟議を行い、デジタル・シティズンシップの理解に努める。	
	成果	課題と改善方策
	○「個別最適な学び」「協働的な学び」をテーマとして、研究授業を、学園、学校で実施した。個々の教員が授業改善に取り組んでいる様子が見られ、「個別最適な学び」「協働的な学び」についての共通理解が進んだ。また、ICT機器（短焦点プロジェクターや学習用タブレット端末）を効果的に活用して授業改善に取り組んだ教員が多い。 ○「デジタル・シティズンシップ教育」の理解に向けた各校での話し合い、学園としての熟議を経て、市内全学園の熟議に参加し、デジタル・シティズンシップに対しての理解が進んだ。	●ICTの効果的な活用 ⇒児童・生徒の自立的な学びにおいて、ICT機器（短焦点プロジェクターや学習用タブレット端末）が授業の中で効果的に活用できているか等について、研修会やアンケート等で検証していく。 ●デジタル・シティズンシップ教育について ⇒最終的に、学園としての「よりよい使い手になるため」のスローガンを作り、児童・生徒の資質・能力を育成する。

検証項目	4 (徳) 豊かな人間性	
目標	伝え合う力を高め、自分も相手も大切にすることを育む。	
取組	①各家庭でのあいさつの励行を進めるとともに、学園と地域の連携による、あいさつ運動の充実に向けていく。 ②家庭との連絡を密にしながら組織的な支援を充実し、子供の悩みや不安を取り除いていくとともに、学校の取組や相談体制を分かりやすく保護者に伝えていく。 ③「学校いじめ防止基本方針」に基づいた取組を着実に実施して、いじめを未然防止するとともに早期発見、早期解決に組織的に取り組む。	
	成果	課題と改善方策
	○学園の挨拶運動が実施でき、各校でも様々な挨拶についての取組も行われ、挨拶についての児童・生徒の意識が高まった。 ○学期初め、終わり等を中心に、児童・生徒への相談体制について、周知できた。日々の生活の中では、スクールカウンセラーを中心に、校内で相談体制を確立している。 ○「学校いじめ防止基本方針」を踏まえ、未然予防、早期発見、早期解決に組織的に取り組むことができた。	●特別な支援を要する児童・生徒への対応 ⇒個々の教員が抱え込むことなく、学校として組織的に対応できる体制を整える。特に校内支援委員会の充実を図る。また、関係諸機関の連携、協力して、個々の児童・生徒に適した支援を行う。（ケース会議等の充実）

検証項目	5 (体) 健康・体力	
目標	すすんで心と体の健康を大切にする態度を育む。	
取組	①発達段階や体力・運動能力の実態に応じて、体育の授業や休み時間、放課後の時間等における適切な取組を計画・実施し、着実に体力・運動能力の向上に努めていく。 ②食育の推進を図り、三鷹産食材を使ったメニュー作りに児童・生徒とともに取り組んでいく。	
	成果	課題と改善方策
	○食育研究学園（学校）として、食に関する正しい知識や望ましい食習慣等について学び、市内産農産物を活用した「給食メニュー」の開発に取り組んだ。小学校では、野菜の栽培、収穫にも取り組んだ。給食には子供たちの考えたメニューが登場している。ホームページ等でも随時、保護者や地域に発信することができた。また、学園保護者対象の講演会も実施できた。	●体力、運動能力の向上と食育の推進 ⇒各校の実態を踏まえ、体育の授業以外にも体力の向上が図れるような取組を行う。また、食が体力や運動能力と大きく結びついていることも学校生活の中で学ばせていく。

検証項目	6 特色ある教育活動（その他）	
目標	関係諸機関や地域関係諸団体と協働して、児童・生徒の放課後や休日の学びを拡充する。（学校3部制の第2部の充実を図る。）	
取組	①関係諸機関との協働により、放課後地域子どもクラブ、みたか地域未来塾、部活動等における学びの時間や内容を充実する。また、児童・生徒が漢字・英語・数学等の各種検定の実施など地域で学べる機会を維持していく。 ②青少対・交通対など地域関係諸団体との連絡・相談を密にして、地域の行事や教室に参加し、児童・生徒の健全育成を図っていく。 ③9年間の系統的な防災授業を実施する。	
	成果	課題と改善方策
	○3校のみたか地域未来塾の活動、三小の放課後地域子どもクラブの拡充、四中の各種検定の実施、拡充（コロナ禍で中学生のみ実施）等、関係機関と協働して、児童・生徒の学びの場の提供を行った。 ○9年間の系統的な防災教育を、計画どおりに実施することができた。コロナ禍の中においても、工夫をしながら実施できたことは大きな成果である。人財活用によって学びの拡充が図られている。	●コロナ禍の状況を把握しつつ、三鷹中央学園としての特色ある活動を推進していく。 ⇒9年間の防災教育への教員の共通理解と共通実践 ⇒みたか地域未来塾のさらなる充実 ⇒「三小、七小放課後地域子どもクラブ」及び「四中ういるびー」の充実、発展 ⇒各種検定の学園（小学生・中学生・地域）としての実施

検証項目	7 学校教育の質の維持向上を目指した学校の働き方改革	
目標	教職員の実勤務時間の縮減や疲労回復につながる働き方改革を推進する。	
取組	① I C Tの効果的な活用とペーパーレス化により、資料作成や会議時間の短縮を図る。 ② 定時退庁日やノー部活動デー等を設定し、メリハリをつけた業務遂行を心がける。 ③ 学校閉庁日等を設定し、計画的な休暇取得を推進する。 ④ 保護者や地域にも理解を求める。	
	成果	課題と改善方策
	○大きな成果はないが、I C Tの活用やペーパーレス化は、確実に進んでいる。教員の意識改革も少しずつではあるが、浸透してきている。	●大きな成果を上げることよりも、教員の心身の健康を優先する。管理職が教員の意見も聞き入れながら方針を出していく。 ●コロナ禍での経験を生かし、転換を図っていく。

令和4年度 三鷹中央学園の評価・検証結果のまとめ

(1) から (7) の検証結果を踏まえて	1 「小・中一貫教育」及び「コミュニティ・スクール」の取組において特によい成果が得られたこと
	<ul style="list-style-type: none"> 学園の教員とCS委員との100人熟議を2回行い、「三鷹中央学園パワーアップアクション」の見直しを行い、一定程度の改訂を行うことができた。熟議に意欲的に参加できたとの教員の回答が90%以上に上り、有意義な熟議になった。 対面での研究授業を3校ともに実施することができた。自らの授業に生かした教員は、95%以上おり、有意義な研究授業となった。また、授業がわかると回答した児童・生徒は90%以上あり、児童・生徒の実態に即した授業が展開できている。 食育研究学園（学校）として、食に関する正しい知識や望ましい食習慣等について学び、市内産農産物を活用した「給食メニュー」の開発に取り組んだ。給食にも子供たちの考えたメニューが登場している。ホームページ等でも随時、保護者や地域に発信することができた。
	2 今年度に明らかになった課題のうち、特に次年度の重点とすること
	① 「三鷹中央学園はぐくみプラン（仮称）」の周知及び実践に向けた具体的なアクションの考案 ② 三鷹市研究協力学園として、児童・生徒の自立的な学びを目指した「個別最適な学び」「協働的な学び」を実現するための授業改善（研究授業）の実施 ③ 教員の働き方改革
	3 「2」の重点課題を解決するための改善策
	① 「三鷹中央学園はぐくみプラン（仮称）」の周知及び実践について、CS委員と協働しながら進めていく。また、それぞれのアクションについて、考える機会を設ける。 ② 三鷹市研究協力学園として、研究授業を中心として、各校の実態に応じた児童・生徒の自立的な学びを目指した授業改善に取り組む。 ③ 小さなこと、できることから実践、引き続きの教員の意識改革に取り組む。

鷹南学園



令和4年度 鷹南学園の評価・検証 結果報告

検証項目	1 コミュニティ・スクールの運営	
目標	①CS委員会の意義や役割を明確にし、学園運営に一層生かしていく。 ②たかみんネットのよさを探り、活動することでスクール・コミュニティを推進する。	
取組	①研修会や熟議を開催し、CS委員会やCS部会の意義や役割の合意形成を丁寧に進め、創造的で持続可能な取り組みを進める。 ②従来のCSプロジェクト活動に加え、放課後の子供の活動について希望調査等をもとに新たな活動内容や場所を提供して、学校3部制の第2部の活動の支援を進める。	
	成果	課題と改善方策
	<ul style="list-style-type: none"> ・CS委同士の熟議や先代CS会長講話の研修などを通して、CS委の意義や役割に対する理解と各委員の意識を深めることができた。また、CS委と教員の熟議を2回行うことで、より学園協働の意識が深まりCSサポート部と中学年の総合的な学習の時間の連携事業を継続させ、サポート体制を持続可能なものにできた。さらに感染症対策との調和を取りながら、鷹南コンサートなどCS行事を再開し、地域との協働を進めることができた。 ・放課後の子どもの活動について希望調査を行い、子ども政策部と連携して子どもの活動場所確保のめどをつけた。地域学校協働本部事業「たかみんネット」を創設し、保護者ニーズに沿った研修会等を行い、スクール・コミュニティの形成を進めた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・CS委員会主催の事業に対する取り組み方について、協議を続けていく必要がある。鷹南会（学校・地域・CSの懇談会・懇親会）のような催しは有意義であるから、工夫して開催していく必要がある。 ・たかみんネットの運営について、銀行口座の開設などより安定した体制、柔軟に対応できる体制を整えていく必要がある。

検証項目	2 小・中一貫教育校としての教育活動	
目標	①より多くの教科で相互乗り入れ授業を想定した取り組みを進め一層の充実を図る。 ②学園行事の内容の精選・検証を行い、質を高めるとともに交流活動の充実を図る。	
取組	①乗り入れ授業を学園研究のテーマに掲げて、学園の全教員で乗り入れに関わる体制を進める。 ②ここまで培われてきた学園行事については学園生主体の取り組みになるよう、検証し、意義や目的を考え、取り組みの変更や活動内容の工夫をしていく。	
	成果	課題と改善方策
	<ul style="list-style-type: none"> ・三鷹市教育委員会研究協力校として、乗り入れ授業を視野に入れた教科指導について実践的な取り組みを検討し、乗り入れの活用方法を深めるとともに、系統性をより強く意識した指導の在り方について世に問うことができた。小学校では中学校教員の専門性の高い指導に触れることで、児童の思考を深めることができた。 ・新型コロナウイルスの影響下にあったが、今年度も、第6学年の中学部活動体験、小・中挨拶運動、第5学年の中学校オリエンテーション、きょうだい学年の交流など、児童・生徒の交流活動を工夫しながら行えた。感想等から児童・生徒がその目的を意識しながら取り組んだことが分かり、成果といえる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・三鷹市教育委員会研究協力校を通じた研究実践を踏まえ、授業改善の成果を検証していく必要がある。そのために、評価に焦点を当てて研究を深める必要がある。 ・三鷹市の学力テストを活用し学力についても検証していく。 ・小・中の交流活動については職員の中に合意形成が十分でないものが見られた。意義を明確にし、合意形成を進めるとともに目的に最適化した行事の再編、取り組みの見直しも進めていく。

検証項目	3 (知) 確かな学力	
目標	①一貫した授業改善を推進する ②学習の個性化、指導の個別化への対応を進める。 ③改訂版鷹南スタンダードを浸透させる。	
取組	①三鷹市教育研究協力校研究発表に向けた取り組みを通して、乗り入れ授業を活用し各教科等の本質に迫る主体的・対話的で深い学びを目指した授業改善を進める。 ②学校支援ボランティア等を拡充しながら地域未来塾や学習用タブレット端末を活用し、家庭学習の習慣を身に付けるとともに、より主体的な学習への構えを作っていく。 ③改訂版鷹南学習スタンダードの定着のため保護者へ周知徹底するとともに、教員の意識を強化し、児童・生徒への指導に生かす。	
	成果	課題と改善方策
	<ul style="list-style-type: none"> 三鷹市教育委員会研究協力校への取り組みを通して、乗り入れを前提に教科の本質に迫るための系統的な指導について日常的な授業改善に取り組むことができた。児童の感想などにその成果を示すものが見られた。 学習用タブレット端末を活用し、予習を積極的に取り入れるなどする中で主体的な学習態度が育ってきた。学校支援ボランティアや地域未来塾の活用で、学習の機会を充実させることができた。 改訂版鷹南スタンダードについて周知徹底に取り組めた。 	<ul style="list-style-type: none"> 三鷹市教育委員会研究協力校の成果として授業改善の成果を検証していく必要がある。今後評価について研究を深め検証を進めていく。 学校支援ボランティア活用を進め、登録者を増やし、保護者に学校支援の啓発を進めていく必要がある。学習用タブレット端末の活用について丁寧に合意形成を図っていく必要がある。 改訂版鷹南スタンダードについては、子どもの自己評価等にも組み入れ、保護者に伝えるなどしながら、連携を強化していく。

検証項目	4 (徳) 豊かな人間性	
目標	①改訂版「鷹南スタンダード(生活のスタンダード)」を浸透させる。 ②デジタル社会に通用する人権教育・道徳教育を充実させ、自立した学園生を育てる。	
取組	①改訂版鷹南生活スタンダードを一層、焦点化、重点化したものにした上で、保護者へ周知徹底するとともに、教員の意識を強化し、児童・生徒への指導に生かす。 ②学園生としてデジタル・シティズンシップについての考えをまとめることを通してデジタル社会に求められる人権感覚を育てていく。教師が手本を示し、いじめ防止やいじめの対応に全力で取り組む。当事者や保護者にきちんと説明して納得を得るようにする。さらに学校行事・学園行事やボランティア活動を通して自己有用感や肯定感を高める。	
	成果	課題と改善方策
	<ul style="list-style-type: none"> 改訂版鷹南スタンダードについて周知徹底に取り組めた。 中学校の生徒会が主導し、小学校児童会とともにデジタル・シティズンシップについて主体的に考え、問題提起し、各校において子どもたちが自分事として問題をとらえることができた。いじめ防止や教員の不適切な指導の防止にも全力で取り組むことができ、安全・安心な学園生活を保つことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き家庭との合意形成を丁寧に進め、連携を強化していく。 デジタル機器のより良い使い手としての意識を育てていくため、常に子ども主体としてデジタル・シティズンシップ教育を継続していく必要がある。学校・学園としての考え方を適宜発信し、保護者・地域と合意形成を進めていく。いじめや不適切な指導等人権侵害に関する問題については引き続き意識を高めその防止に努めるとともに、問題発生時には説明や合意形成を丁寧に取り組んでいく。

検証項目	5 (体) 健康・体力	
目標	①学園運営委員会を活用し、学園における健康・体力育成上の課題に対応する。	
取組	①学園運営委員会では今年度も「体力部会」を設定し、調査等を分析する。教育課程編成や授業改善のための資料の作成を行い、重点的取り組みを明確化する。	
	成果	課題と改善方策
	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度に引き続き、運動が制限される状況が続いていることから、児童生徒の体力低下が懸念された。また、学園運営委員会においても「体力部会」の活動も十分にできなかった。ただその中でも、各校において、体育の時間の工夫した取り組み、始業前の校庭の開放など児童・生徒の運動量の確保ができたのは成果である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・体力測定の結果、体力低下が懸念される。運動量確保等に向けた取り組みを継続していく必要がある。教育課程編成に向けての資料の作成を行い、重点取り組みを明確化する。 ・各校の体育担当等が意図的・計画的な取り組みを行い、縄跳び週間・マラソン週間など、重点的取り組みを明確にし、運動する機会を確保・増加することで体力向上が期待できる。

検証項目	6 特色ある教育活動（その他）	
目標	①地域の人材を活用して総合的な学習の時間等の充実を図る。 ②キャリアパスポートを活用して自己肯定感を育てていく。	
取組	① CSサポート部や学校支援ボランティア、その他の地域人材の活用について教育計画に位置付け、積極的に実施していく。 ② 節目ごとに自己を振り返る活動を位置づけ、コーチングをベースに自己の成長を自覚する取り組みをしていく。	
	成果	課題と改善方策
	<ul style="list-style-type: none"> ・CSサポート部が中心となって、3,4年生の総合的な学習の時間のサポート体制を構築した。地域取材の体制が整えられ、ビデオメッセージなどの教材を作成することができた。 ・キャリアパスポートを活用し、節目ごとに自己を振り返らせ、自己調整力を高めることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域人材をCSのコーディネートにより生かしていく取り組みをさらに充実させていく。そのためにも教員からニーズを吸い上げて積極的に協力を求めていく必要がある。 ・自己肯定感を高めるために子どもの達成感を重視した指導を継続する。自身が自己決定し、自身の努力によってことをなすコーチング理論を取り入れた指導を適宜取り入れられるようその浸透を図っていく。

検証項目	7 学校教育の質の維持向上を目指した学校の働き方改革	
目標	①教員のタイムマネジメント力、外部人材の活用率の向上 ②地域行事等への参加の工夫等	
取組	①ICTを活用しながら、教員のタイムマネジメントが行えるようにするとともに、積極的、計画的に学校支援ボランティア等の外部人材を活用していく。 ②地域行事については、年度当初から見通しをもち、計画的に参加ができるようにする。	
	成果	課題と改善方策
	<ul style="list-style-type: none"> ICTを活用し、会議等の精選を達成するとともに校務支援システムにより、勤務実態を正確に把握することで、教員のタイムマネジメントの意識を高め、超過勤務の縮減に成果を上げた。学校支援ボランティアの活用も浸透してきており、教育の質を高める働き方改革を進めることができた。 地域行事やCS熟議についてあらかじめ教員に伝えることで、無理なく参加することができ、保護者・地域との協働意識の構築に成果を上げることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 時間の縮減は目的ではなく、教育の質を高める手段と考え、その意義を明確にして取り組んでいく必要がある。学校支援ボランティア等外部人材の活用についても同様で、人々の交流活動を工夫して互いが生かされる制度・システムづくりを目指していく。 参加する教員が偏らないようにすべての教員に意義を説きつつ無理のない参加を呼びかけていく。

令和4年度 鷹南学園の評価・検証結果のまとめ

(1) から (7) の検証結果を踏まえて	1 「小・中一貫教育」及び「コミュニティ・スクール」の取組において特によい成果が得られたこと
	<ul style="list-style-type: none"> 学校とサポート部の連携や教員とCS委との熟議の充実など、CSとの協働が進み、よりよい子どもの育ちにつなげることができた。 地域学校協働活動推進の核となるネットワーク「たかみんネット」を発足させ、講演会等を実施することができ、スクール・コミュニティを推進できた。 小・中一貫をより意識して主体的・対話的で深い学びを目指した授業改善に取り組み、三鷹市教育委員会研究協力校として成果を示すことができた。 デジタル・シティズンシップ教育や健全育成上の課題を学校・地域・家庭で共有し、課題解決に向けて考えることができた。
	2 今年度に明らかになった課題のうち、特に次年度の重点とすること
	<ul style="list-style-type: none"> ① CS委員会の目的等について引き続き合意形成を進め、スクール・コミュニティの核を目指す。 ② 学園生の交流活動・乗り入れや学校支援ボランティアの活用について意義や目的を考え、さらに工夫し、効果を上げていく。 ③ 主体的・対話的で深い学びに向け、授業改善を図る。学習用タブレット端末の活用・個別最適な学びを踏まえた実践をしていく。 ④ 小・中一貫して学園生の心を豊かにし、一層安心して楽しく学園生活を送っていただけるようにする。
	3 「2」の重点課題を解決するための改善策
<ul style="list-style-type: none"> ① CS委員会において研修や熟議を行い、合意形成を丁寧にしながらスクール・コミュニティのネットワークを構築する。 ② 学園生のための交流活動となるよう、丁寧に検証する。また、学園の教育活動全体で学校支援ボランティアの活用を進める。 ③ 学園研究を活用し、主体的・対話的で深い学び、個別最適な学びの取り組みについて検証し改善を積み上げていく。 ④ 子どもを信じ、保護者と連携し、健全育成を推進していく。 	

東三鷹学園



令和4年度 東三鷹学園の評価・検証 結果報告

検証項目	1 コミュニティ・スクールの運営	
目標	1 東三鷹学園スタンダード（キャリアパスポート）の充実 2 CS委員会や学園のPR活動の推進 3 サポート隊の充実、地域人財の活用、教育ボランティアの充実 4 スクール・コミュニティの創造に係る	
取組	1 より効果的に東三鷹学園スタンダード（キャリアパスポート）を取り組めるように、教員とCS委員が連携して改善を図る。 2 学園カレンダーをCS委員会と連携して作成する。CSだよりや学園HPの充実を図る。 3 学園サポート隊事務局の運営の充実を図り、地域人財や教育（学生）ボランティアを効果的に活用した教育活動を推進する。 4 学校を核とした地域づくりの発展を目指し、学園として、地域の特性を生かした連携の場と、人を地域に提供していき、学校3部制実現への準備とする。	
	成果	課題と改善方策
	1 児童・生徒は意識して概ね活用できてきている。また、CS委員会評価部において、アンケート結果を分析し、次年度からの家庭での取組のさらなる充実に向けて東三鷹学園スタンダード（キャリアパスポート）の改善を進めることができた。 2 CS委員会広報部において、地域の関係諸団体の協力を得て、誌面を工夫する等して学園カレンダーを充実させることができた。 3 各校でのサポート隊の活用が増え、徐々に児童・生徒の教育活動を新型コロナウイルス感染症対策以前のように充実させることができた。 4 新しい生活様式に基づいた運営や参加の仕方等を地域関係諸団体とともに工夫することによって、従来から地域で伝統的に培ってきた行事等に協力するとともに、新しい形態での運営方法で実施することができた。	1 児童・生徒の学年進行に伴い、児童・生徒及びその保護者の東三鷹学園スタンダード（キャリアパスポート）への取組が増加傾向にあるので、引き続き、学校とCS委員会が協働して、学園・学校だよりやCSだより等を活用し取組を紹介し児童・生徒及びその保護者の理解を深めることができるようにしていく。 2 年間をとおして、CSだより、学園HPに学園スタンダード（キャリアパスポート）の特集を組む等して、PRに努める。 3 学校と学園サポート隊事務局との協力体制をより効果的に運営していけるよう、手続きの仕方等を工夫し、地域人財や大学生等の積極的活用を図っていく。 4 学校3部制の2部に当たる、小学校における家庭開放の拡充、放課後子どもクラブや学童保育所との連携した取組、中学校における部活動の地域人財等による新たな支援体制の構築を具体的に協議し、推進していく。

検証項目	2 小・中一貫教育校としての教育活動	
目標	1 東三鷹学園版カリキュラムに沿った授業改善の推進 2 相互乗り入れ授業の充実 3 児童・生徒の交流活動の充実	
取組	1 学園カリキュラムに沿って、児童・生徒に身に付けさせたい力を明確にした授業改善を推進するとともに、カリキュラムの改善を図る。 2 小・中学校間の相互乗り入れ授業を推進する。（中→小：保健体育）（小→中：一年生への支援） 3-1 小・小学校、小・中学校の交流活動を推進して人間関係を深め、地域の一員としての意識が高まるよう努力する。 3-2 TEH（学園生徒会・児童会）の活動を推進し学園の自治意識を高める。	
	成果	課題と改善方策
	1 中学校における人権尊重教育推進のための研究や小学校における校内研究をはじめ、学園カリキュラムに基づいた授業改善に向けた小・中教員による相互理解が深まり、具体的な提案が増えてきている。 2 中学校の保健体育科教員の小学校授業への参加、小学校教員による中学校授業のサポートともに計画的に実施することができた。 3-1 新しい生活様式に基づいて、これまでの伝統を守りながら、第六中学校を会場として実施する等の工夫をして、小・中の教員がともに児童・生徒の成長を見守りながら、児童・生徒主体の交流活動を実施することができた。 3-2 あいさつ運動の実施、デジタル・シティズンシップ教育に係る子ども熟議、CS委員・教員代表との熟議をとおして、児童・生徒が自ら考え、判断し、学園生活を創り出していく取組を充実させることができ、児童・生徒が実感をもって取り組むことができた。	1 学習指導要領に基づいた授業実践をとおして、学園カリキュラムの改善を進めていく。 2 小・中ともに、授業における指導の内容や方法等の連絡方法の改善など工夫していく。 3-1 学園の地域性を活かしながら、発達段階に応じて農作業などを児童・生徒がともに体験する取組をとおして、交流活動を充実させていく。また、中学生が地域の担い手として活躍できる場として、小学校の運動会へのボランティア参加などの機会を増やしていく。 3-2 あいさつ運動、デジタル・シティズンシップ教育に係る熟議等の経験を活かし、学園として東三鷹学園スタンダード（キャリアパスポート）の取組やいじめ防止対策などについても、子ども熟議や大人との熟議をとおして、児童・生徒の自主的自発的な活動の機会を増やし、児童・生徒が自らのこととして取り組めるようにしていく。

検証項目	3 (知) 確かな学力	
目標	1 基礎学力の向上 2 教員の指導力の向上 3 家庭学習の充実 4 みたか地域未来塾をはじめとした補充学習等	
取組	1-1 個別最適化した学習を推進し、確かな学力を一人ひとりに定着を図る。特に個に応じた指導の徹底、ICT機器の積極的な活用（GIGAスクール構想）、学園としてのコンテスト（JMコン）を実施する。 1-2 「みたか地域未来塾」を効果的に実施し、補充学習の充実を図る。 1-3 デジタル・シティズンシップ教育の実践。 2 学園研究会の充実を図り、研究の成果を日常の授業で実践できるようにする。 ・授業のユニバーサルデザイン化による分かる授業の推進 ・主体的・対話的で深い学びの推進 3 家庭と協働して、学習用タブレット端末を活用した家庭学習を推進する。 4 地域の人財や、学生ボランティアを最大限に利用して、放課後や長期休業中の児童・生徒の学習の手助けを進めていく。	
	成果	課題と改善方策
	1-1 研究実践をとおして各教科の個に応じた指導を追究し、分かる授業の日常化を図ってきた。 1-2 小・中共通のみたか地域未来塾を計画的に実施することができ、児童・生徒及びその保護者のニーズが高まってきた。 1-3 子どもも熟議、CS委員・教員代表との熟議をとおして、児童・生徒が自主的自発的にルールを創り出していく機運が高まった。 2 学園研究会の研究主題を具体的に実現できるように、各校が担当する研究授業を計画的に実践し、小・中の教員が教科・領域を超えて、児童・生徒がより分かる授業について協議し、理解を深めることができた。 3 各学年・学級担任、教科担任から学習用タブレット端末により定期的に課題を提示すると同時に、学年だよりや校支援保護者連絡帳を活用して家庭への連絡を取り、家庭学習の習慣化を図ることができた。 4 中学校における定期テストの補充学習、小学校における授業中の学習支援など、サポート隊や学習ボランティアの支援で充実させてきた。	1-1 学園研究の主題に位置付け、個別最適な学びを具現化するとともに、学園としてのコンテスト（JMコン）を充実させていく。 1-2 地域人財や学生ボランティアの登録者を増やし、みたか地域未来塾の拡充へのニーズに応え、児童・生徒の学力の向上に向け支援を充実していく。 1-3 小学校の低・中学年の意識を高めていくことができるよう、児童・生徒での話し合いを継続化し、THEの取組として定着化させていく。 2 国・都・市の学力調査等の分析を踏まえ、学園の児童・生徒の実態に即してすべての児童・生徒がより分かる授業を日常的に行っていく。 3 学園・学年として学習進度に応じた家庭学習の進め方ガイド等の作成をとおして、児童・生徒が自主的自発的に家庭学習を進めていけるようにする。 4 サポート隊に加えて近隣大学の学生や地域人財の協力を得ることができ体制を整え、日常的に学習への支援を充実させていく。

検証項目	4 (徳) 豊かな人間性	
目標	1 人権と言葉を大切にした指導の推進 2 デジタル・シティズンシップ教育の推進	
取組	1-1 いじめの根絶、体罰0を目指す教育を推進する。 1-2 学園として挨拶運動を推進する。 1-3 学園として規範意識の向上を目指す。 1-4 学園として人権尊重教育推進校（六中）に協力し、児童・生徒、保護者、地域の方々と共に、学びを進めていく。 2 地域・家庭・学校が協働して、デジタル・シティズンシップ教育を推進する。	
	成果	課題と改善方策
	1-1 いじめアンケートや児童・生徒との会話、生活のスタンダード、日々の指導を通して、いじめを早期に発見・防止することができている。また、スクールカウンセラーや保健室の活用により、悩みや問題に適切に対応している。 1-2 あいさつ運動期間を中心に日々の活動を通して、大人から積極的にあいさつを行うことで、児童・生徒の自覚の向上を促している。 1-3 児童・生徒が時間を守る、忘れ物をしない、きまりを守るなどの生活習慣を身に付けている。また、相手に応じた言葉遣いの意識を高くもっている。 2 熟議をきっかけに、代表委員会や生徒会から全校に呼び掛け、デジタル・シティズンシップの意識の向上を図ることができてきた。	1-1 いじめの早期発見・対応に関して、保護者の肯定的評価は昨年度より向上している。地域・家庭との連携をさらに強固のものとし、指導の充実と取り組みの向上を進めていく。 1-2 あいさつに関して保護者の肯定的評価も向上している。学校では、大人が積極的に挨拶することで、児童・生徒の意識向上を図っている。家庭や地域でのあいさつにも拡げていかれるようにする。 1-3 学園スタンダード活用の意識がまだ低い。生活と学力の相関性を高めるために、学園スタンダードをキャリアパスポートとしての積極的な活用をしていく。 2 学習用タブレット端末をツールとしてより有効に活用できるよう、教員からだけでなく、児童・生徒からスキルや使用の仕方を発信させる。

検証項目	5 (体) 健康・体力	
目標	1 体力の向上 2 地域貢献する力の育成 3 健康にかかわる食育の実践	
取組	1 義務教育9年間を見通した体力づくりの取組を実施する。特にコロナ禍で低下した児童・生徒の体力回復、向上のため、基本的な生活習慣の見直しや確立、体育、保健体育の授業、休み時間や放課後の時間、部活動等の計画的な実践を進めていく。 2 地域行事への参加やボランティア活動を通して、児童・生徒の心と体の健康づくりを推進する。 3 栄養士の協力や、家庭科の授業等を通じて、健康に関わる食育を進めていく。	
	成果	課題と改善方策
	1 (1) 中学校から小学校への体育授業への乗り入れも順調に行い、専門的な技能の習得とともに、運動に親しみ体力の向上に繋げることができた。 (2) 体力テストの結果から、学校の課題を集約し、健康教育委員会が中心となり、学園の課題を把握した。さらに、課題改善に向けての方策を検討し、実践に繋げていきたい。 2 地域行事への参加やボランティア(地域行事・小学校行事)活動は昨年より増えたがまだ中止になるものもあった。行われた行事には例年よりも多くの児童・生徒や保護者が参加した。多くの人のために奉仕し感謝されること等で、自己有用感をもたせたり、小学校では地域行事への参加を奨励したり、地域の一員としての意識をさらに高めていきたい。 3 農園活動や収穫体験などから自分たちの食べているものに関心を持ち、食について考える機会が多くある。	1 義務教育9年間を見通した一貫した体力向上の取組をさらに充実させていく必要がある。運動の日常化や体力調査の分析から各校の実践まで情報を共有し、より効果的な実践に繋げていく。特に瞬発力や跳力、投げる力に課題があり、体育の授業や体育的な活動において、課題改善のための継続的な取組を学園として推進していく。また、相互乗り入れ授業を効果的に活用し、教師の指導力を高めるとともに、教員間の情報共有をさらに進める。 2 児童・生徒の地域の一員としての意識を高め、ボランティアを通して自己有用感を高めることを、継続していくことが大切である。地域行事への参加、ボランティアの参加をさらに奨励して、地域の中で人間力・社会力を高めていく。 3 農園活動や農家での職場体験などを通し、食の安全や未来に向けての食育を学園全体で行っていく。

検証項目	6 特色ある教育活動(その他)	
目標	1 特色あるキャリア・アントレプレナーシップ教育 2 オリンピック・パラリンピック教育レガシーの継続等	
取組	1 学区域だけではなく、三鷹市を見据えた地域学習を実践し、未来を見越したキャリア・アントレプレナーシップ教育を推進していく。 2 体力面だけではなく、世界の文化や歴史などの学習を進め、オリンピック・パラリンピック教育レガシーの継続指導を行い、平和教育や、人権尊重教育に繋げ、学習を進めていく。	
	成果	課題と改善方策
	1 JA青壮年部や地域の企業、大学等との連携により、中学校だけでなく小学校においてもアントレプレナーシップを意識した地域学習を行うことができた。 2 第六中学校の2年間の人権教育の研究成果を生かし、様々な教科や活動、行事においてオリンピック・パラリンピック教育レガシーを意識した取り組みを進めることができた。	1 学園の教育活動に関わっていただける地域人財をさらに増やし、効果的で持続可能なキャリア・アントレプレナーシップ教育を推進していくこと。 2 座学だけでなく体験的な活動を多く取り入れ、児童・生徒が様々な本物を見たり触れたりすることができるようにする。

検証項目	7 学校教育の質の維持向上を目指した学校の働き方改革	
目標	1 教職員のライフ・ワーク・バランスの推進 2 地域行事等への参加	
取組	1 校務改善や教職員の意識改革を図りながら、3校の実態に応じた働き方改革を推進する。SSSや教育ボランティア、部活動指導員等を効果的に活用し、教職員が児童・生徒と向き合える時間を確保する。 2 地域との関わりを積極的に推進し、児童・生徒だけではなく、大人も参加できる雰囲気づくり等を工夫していく。	
	成果	課題と改善方策
1	<p>各校の主な取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定時退勤日の設定 ・1日30分の実質の勤務時間減の努力 ・部活動顧問の複数配置と定期試験週間の休暇促進 ・長期休業中の休暇取得促進 ・毎月の教職員一人ひとりの超過勤務時間の確認 ・個別に教職員の状況確認 ・年次休暇の消化促進 <p>少しずつではあるが教職員の在校時間は減ってきている。教職員が仕事を効率的に行い、ライフ・ワーク・バランスを推進しようとする意識は高くなっている。</p> <p>2 地域行事は徐々に復活し、児童・生徒、保護者、教職員の参加も増加してきている。</p>	<p>1 各校で工夫した取組を実施し、効果は出ているが時間外に仕事することが多い現状は続いている。各校の取組や成果を共有し、さらに校務改善を推進する。また教職員一人ひとりのライフ・ワーク・バランスの意識をさらに高めていく。</p> <p>2 地域行事に多くの児童・生徒が参加できるPR活動を行い、地域への貢献に繋げていきたい。また、スクール・コミュニティの観点から、保護者だけでなく地域の大人が、学校に集える企画を行い、実践していきたい。</p>

令和4年度 東三鷹学園の評価・検証結果のまとめ

(1) から (7) の検証結果を踏まえて	1 「小・中一貫教育」及び「コミュニティ・スクール」の取組において特によい成果が得られたこと
	<p>○学園合同研究会では、テーマに沿って各校で実践して、成果を共有することができた。感染対策の中でも学習用タブレット端末やPC等を活用して情報交換しながら、学園全体で授業改善していく姿勢がもてた。</p> <p>○学園カレンダーをCS委員会が中心に作成することができた。作成していく過程で、各校や諸団体、市や杏林大学等との連携を強めることができた。</p> <p>○いじめ調査やQ-U調査、生活スタンダード、日々の指導や児童・生徒との会話を通して、いじめの早期発見・防止することができている。また、きまりを守ることや相手をに応じた言葉遣いの意識が高まっている。</p> <p>○人権尊重教育推進の継続。</p> <p>○CS委員と学園のPTA、教職員との熟議。</p>
	2 今年度に明らかになった課題のうち、特に次年度の重点とすること
	<p>○小・中のつながりを意識した、さらに充実した学園研究の実施していく。また、一人一台学習用タブレット端末を学習のツールとして、有効に活用する研究を深めていく。</p> <p>○CS委員会と協働で、学園スタンダード（キャリアパスポート）の児童・生徒及び保護者の理解を深め、より効果的に活用できるようにする。</p> <p>○感染症対策を確実にを行い、児童・生徒の交流活動を可能な限り実施した。実施方法や実施時期を創意工夫して次年度は完全復活+αとしたい。</p> <p>○学園3校のサポート隊事務局の連携を強化し、サポート活動の充実を図る。</p> <p>○学園・CS委員会の活動の発信をさらに工夫し、充実したものにしていく。</p> <p>○熟議の方法（リモート等の利用）や、開催の日程調整を綿密に行い、①児童・生徒、②PTA、③教職員の3回は確実に実施する。</p>
	3 「2」の重点課題を解決するための改善策
	<p>○学園合同研究会は、テーマに沿って授業研究を中心に行い、学習用タブレット端末を活用した実践の交流を行う。また、学園版カリキュラムの実証を行い、地域人財をさらに活用した授業実践を行う。</p> <p>○学園スタンダードについて、活用方法について教職員の共通理解を図るとともに、保護者会や熟議を保護者の理解を深める機会にする。</p> <p>○乗り入れ授業の在り方を見直し、より効果的な方法で実施する。交流活動はさらに充実した形で工夫し、実施する。</p> <p>○学園3校のサポート隊が協力し合い、活動の充実を図る。3校のサポート隊は「学園サポート隊」に近い将来一本化する。</p> <p>○CSだより、学園だよりで活動を発信する。特に学園ホームページを充実していく。</p> <p>○CS委員と児童・生徒、教職員、保護者とのそれぞれの熟議を計画、確実に実施する。</p>

おおさわ学園



おおさわ学園

令和4年度 おおさわ学園の評価・検証 結果報告

検証項目	1 コミュニティ・スクールの運営	
目標	1 CS委員会及び学園の広報活動の充実 2 「コモンズ」としての学校、「学校3部制」への取組み	
取組	1 「おおさわスクール・コミュニティカレンダー」を地域と協働し作成する。おおさわ学園HPの充実を図る。CS委員と学園教員の合同会議を設定する。 2 コミュニティ・スクールにおける支援や活動の新たな体制について検討し、スクール・コミュニティの創造に関わる。「学校3部制」の2部、3部へ実践を目指す。	
	成果	課題と改善方策
	<ul style="list-style-type: none"> ・学園3校の児童・生徒の有志(通称「SAC」と教員、CS委員が協働して、国立天文台の協力の下、「おおさわスクール・コミュニティカレンダー」の作成に取り組むことができた。 ・デジタル・シティズンシップ教育に関する熟議では、学園3校の代表児童・生徒、教員、CS委員がそれぞれの立場から活発に意見交換することができた。 ・コロナ禍であっても、放課後地域子どもクラブ「大沢けやきっず」「羽沢るんるん」の活動がより充実してきている。 	<p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・おおさわ学園のHPの更新率が低く、発信が少ない。 ・スクール・コミュニティの推進に関する教員の理解及び意識が高くない。 <p>【改善方策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学園HPの担当及び役割を明確にし、更新率を上げていく。 ・CS委員、教員、児童・生徒で、天文台を中心としたまちづくりや学校3部制についての熟議を実施する。

検証項目	2 小・中一貫教育校としての教育活動	
目標	1 「地域人財・資源の発掘と活用～地域の力を児童・生徒の学びへ～」を研究主題に学園として研究に取り組む 2 小学校と中学校、小学校同士の交流活動の充実	
取組	1 学園研究会を計画的に実施する。 2 交流活動を推進し、学園生としての意識向上を図るとともに、人間関係を深め、地域貢献へ進めていく。	
	成果	課題と改善方策
	<ul style="list-style-type: none"> ・三鷹市教育研究協力校としての1年目の学園研究の取組として、国立天文台やICUをはじめとする大沢地域にある施設や関係者との交流を通じて、教員の地域理解を深めることができた。 ・コロナ禍にあっても、3年ぶりに対面での「ふれあい音楽交流」「部活動体験」などの学園間の交流活動をほぼ計画どおりに実施することができ、学園生の仲間意識を高めることができた。 	<p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域人財・施設に対する理解は深まったが、その活用の実践は多くない。児童・生徒の学びにつながることの検証がまだできていない。 ・相互乗り入れ授業に対する教員の意識の差があり、その効果を共通理解できていない。 <p>【改善方策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域人財・施設の活用の実践を計画的に積み重ね、その効果を、児童・生徒の学びに視点を当てて検証し、次年度研究発表をする。 ・相互乗り入れ授業のねらいを明確にし、全教員が共通認識のもとで実践を積み重ねていく。学期ごとに振り返りを行い、その効果を検証し、改善等を図っていく。

証項目	3 (知) 確かな学力	
目標	1 「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善 2 学習用タブレット端末を活用 3 補充学習等	
取組	1 学力の向上を目指す 2 一人一人の理解状況や能力・適正に合わせた個別最適化された学びを保証する。活用事例をカリキュラムに位置付ける 3 みたか地域未来塾の効果的運用	
	成果	課題と改善方策
	<ul style="list-style-type: none"> ・教員は学習用タブレット端末・及び短焦点プロジェクターを効果的に活用しながら、授業を進めている。児童・生徒も学習用タブレット端末が導入されて丸2年が経ったため、これまでとは大きく授業の様相が変わり、授業や家庭学習等での使用頻度が増えており、スキルも高まっている。 ・みたか地域未来塾や夏季補充学習において、計画的に補充学習を行い、参加者は自分の課題を克服し、学力を高めている。 ・学習に対する児童・生徒の満足度は、80%を超えており、数値が高い。 	【課題】 <ul style="list-style-type: none"> ・学習用タブレット端末や短焦点プロジェクターの活用に関して、教員間の差がある。 ・個別最適な学びを十分に図られていない。 【改善策】 <ul style="list-style-type: none"> ・学習用タブレット端末等を活用して成果を上げた実践事例を、学園の教員間で共有しながら、系統立てたカリキュラムを構築していく。 ・個別最適な学びができるようにしながら、だれ一人残さずに確実に学力を向上させることを視点として授業改善を進めていく。

検証項目	4 (徳) 豊かな人間性	
目標	1 「考え、議論する」道徳の充実 2 生活指導と教育相談の充実 3 デジタル・シティズンシップ教育の実施	
取組	1 道徳教育の充実を図る 2 いじめや問題行動の予防と、早期発見・解消 3 善き社会の担い手を目指す。特にICTに関して「活用・自律・行動規範」を考えさせていく	
	成果	課題と改善方策
	<ul style="list-style-type: none"> ・「デジタル・シティズンシップ」等での熟議経験や日常の「話し合い活動」の充実などを通して、「考え・議論する道徳」の授業に対して、その身に付けた力を発揮できるようになってきた。 ・道徳授業の充実を図り、道徳的実践力を育成することを通して、児童・生徒の自己肯定感、自己有用感を育むことができた。 ・「地域の子供は地域で育てる」の思いをもって、CS委員会をはじめ、学校に積極的に関わっていただいている地域の関係諸機関との連携が、いじめの未然防止、児童・生徒の健全育成につながっている。 	【課題】 <ul style="list-style-type: none"> ・道徳の授業改善への教員間の意識の差。 ・SCへの相談件数が多く、悩みや不安を抱える児童・生徒・保護者も含め、対応が必要。 【改善方策】 <ul style="list-style-type: none"> ・教員の意識を高めるために、学年間での日々の情報交換やOJT研修、授業改善推進プランの活用で改善を図っていく。 ・いじめや問題行動の予防と早期発見・解消、さらなる改善として教育相談や教育支援の充実、即対応できるシステムの構築を目指す。

検証項目	5 (体) 健康・体力	
目標	1 基本的な生活習慣の確立及び新しい生活様式の徹底 2 体力向上	
取組	1 連絡帳やタブレット等の効果的な活用。新型コロナウイルス感染症対策に油断せず取り組む 2 運動能力や生活習慣調査の結果を学園として分析し、学園カリキュラムに位置付ける	
	成果	課題と改善方策
	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校では持久走記録会、中学校ではマラソン大会を継続していることもあり、新型コロナウイルス感染症のため体力低下といわれる中でも、体力テストで図る体力のうち、「持久力」に関しては、比較的高い水準を保っている。 ・学習用タブレット端末を活用して、毎日の検温に加え、本日の気持ち等も入力できているため、自身の健康に関する興味・関心への意識は、コロナ禍に入る前より確実に高まっている。 ・来年度に向けて、体力向上に関する全体計画・年間指導計画を作成することができた。 	<p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中学生は特に部活引退後の体力向上の取組を図りたい。 ・体力向上は理解しているものの、具体的行動に表れてこない。 ・規則正しい生活が定着できていない児童・生徒がいる。 <p>【改善方策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家庭でもできる体力づくりの取組を紹介するなど、「運動の日常化」を図れるようにする。また、休み時間等を活用し学校外で活動機会を増やし、そこで体力向上の取組ができると、運動をしない児童・生徒にも運動をしようとする意識をもたせられる。 ・健康教育の中で、規則正しい生活（早寝・早起き、食事等）をするとどんなよさがあるか、児童・生徒自身に考えさせて、学習が実践に結びつくようにしていく。

検証項目	6 特色ある教育活動（その他）	
目標	1 教育支援及び教育相談の充実を図る 2 学園として継続性のあるキャリア教育に取り組む 3 防災教育の充実	
取組	1 おおさわ学園スクールカウンセラーとの連携を強化する。学園として「教育支援研修」を実施し、共通理解を図る。 2 「キャリアパスポート」を活用し、主体的に学びに向かう力を育む。 3 学園合同の防災訓練に取組み、防災意識を高める。	
	成果	課題と改善方策
	<p>○目標1について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市任用のSCを中心に各校の情報交換を図るとともに、養護教諭も関わり、教育支援の充実を進めることができた。 ・市教委巡回発達相談員の澤地都志子先生を講師に招聘し、8月26日（金）の教育支援研修を実施。発達障がいに関する知識や支援について、一層理解を深めることができた。 <p>○目標2について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・おおさわ学園で使用する「キャリアパスポート」について9年間継続して活用できるよう工夫・改良を行い、系統的・縦断的なキャリア教育の充実を図ることができた。 <p>○目標3について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・5月7日（土）におおさわ学園引き渡し訓練を行ったとともに、10月2日（日）の三鷹市総合防災訓練に小・中共に参加し、防災意識を高めることができた。 	<p>○目標1について</p> <p>【課題】 学園としてSCを中心に児童・生徒の支援について情報交換を行い、改善を図っているものの不登校児童・生徒の数は依然として減少していない。</p> <p>【改善方策】 家庭支援の必要なケースが多いので、民生児童委員等の連携を図り、家庭の見守りの強化を図るとともに、子ども家庭支援センターや児童相談所の機能役割について、研修会を実施し、教職員の資質・能力を向上させる。</p> <p>○目標2について</p> <p>【課題】 キャリアパスポートの作成は定着しつつあるものの、実際の生活の場面で働く意義や勤労意識を高める取り組みが少ない。</p> <p>【改善方策】 新型コロナの状況も踏まえながら、総合的な学習の時間や学校行事で勤労体験を実施するとともに、地域と連携してボランティア活動の充実を図る。</p> <p>○目標3について</p> <p>【課題】 防災意識高まっているものの、自然災害に対する理解は十分と言えない。</p> <p>【改善方策】 土砂災害警戒区域等の危険マップの作成に中学校も取り組む。</p>

検証項目	7 学校教育の質の維持向上を目指した学校の働き方改革	
目標	1 働き方改革の推進	
取組	1 校務改善や教職員の意識改革を図りながら、3校の実態に応じた働き方改革を推進する。 2 副校長補佐、スクール・サポート・スタッフ、ICTの効果的活用を進める。	
	成果	課題と改善方策
	<ul style="list-style-type: none"> 学習用タブレット端末内の業務用ソフトの活用により、連絡・相談等時間を短縮することができた。 同学習用タブレット端末の活用によって、ペーパーレス化を実施し、資料を印刷する等の時間を削減することができた。 会議の精選により、開催回数を減らし、その分教材研究や児童・生徒指導に充てることができた。 プリントの印刷や資料作成等に、副校長業務支援員やスクール・サポート・スタッフを効果的に活用し、超過勤務の状況が改善できた。 	<p>【課題1】学習用タブレット端末の使用に消極的な教員がおり、効率よく職務を遂行できていない教職員がいる。</p> <p>【改善方策】GIGAスクールマイスター教員やICT支援員による講習会を実施し、学習用タブレット端末の使用について理解を図り、活用させる。</p> <p>【課題2】中学校においては放課後のクラブ・部活動の指導の時間が超過勤務の要因となっている。</p> <p>【改善方策】部活動指導員や外部指導助手を積極的に活用し、指導時間の短縮を図る。</p> <p>【課題3】超過勤務をする教職員が固定化しており、学校全体としての働き改革の推進に結び付いていない。</p> <p>【改善方策】教職一斉の定時退勤デーや同ウィークを設定し、学校全体で働き方改革に取り組むとともに、ライフ・ワーク・バランスに係る意識の啓発を図る。</p>

令和4年度 おおさわ学園の評価・検証結果のまとめ

(1) から (7) の検証結果を踏まえて	1 「小・中一貫教育」及び「コミュニティ・スクール」の取組において特によい成果が得られたこと
	<p>今年度の取組として「フレンドシップ」「ボランティアマインド」「学園研修」の3点を挙げる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 「フレンドシップ」創出・・・小・中交流、小・小交流、支援学級交流等コロナ禍で中止していた活動ができるようになった。中学生を手本とする小学生、小学生を気にかけて面倒見る中学生と学園の「フレンドシップ」創出につながった。 「ボランティアマインド」育成・・・相手の立場にたって思いやりのある行動。互いに認め合い支えあう力等が多くボランティア活動を通して育成された。 「学園研修」・・・学園教職員が、地域の施設を訪問し解説を伺い学んだ。このことは教職員が「地域を知る」「子供たちの生活場所を知る」「授業充実」につながっている。
	2 今年度に明らかになった課題のうち、特に次年度の重点とすること
	<p>学園・学校アンケート項目「家で読書していますか」児童・生徒の肯定的回答は、小学生 56.5% 中学生 38% 保護者の肯定的回答は、小学校 49% 中学校 37%と最も低いものだった。読書は、メリットも多く、特に小・中学校時代において大切な活動と考えている。</p> <p>また、同じく「コミュニティ・スクール委員会の活動や役割を理解している」保護者の肯定的回答は、小学校 54% 中学校 53%だった。「コミュニティ・スクールからスクール・コミュニティへ」の実現に向けて周知を継続していく。</p>
3 「2」の重点課題を解決するための改善策	
	<ul style="list-style-type: none"> 「読書活動」について 読書の有効性の周知、学校での「朝読書」の継続、放課後等を含めた図書館の有効活用、「図書館だより」や「読み聞かせ会」等の充実を図る。 「コミュニティ・スクール委員会の活動や役割を理解」について 広報の充実をはかる。「コミュニティ・カレンダー」や各種検定等「地域学校協働活動」の組織化を受け、多くの保護者や地域住民のかかわりを広げていく。ホームページ等も活用し一層の周知徹底を図る。